

今日、妹背牛町の100歳の長寿者の方に、内閣総理大臣より表彰状が贈られ、伝達に伺います。100歳を迎え、多くの友人たちは他界されたに違いないであろうという方に、わたしはどんな言葉を掛けたら良いのでしょうか。

100年という時間をかけて刻み込まれた何かに、まずは深い敬意を抱いていくべきなのですが、具体的にどのようなイメージを抱くことで、生き活きとした敬意を持てるのでしょうか。わたしは昭和30年代の生まれです。冬には、駅前から石炭を積んだ馬そりが雪道を滑っていきます。私は竹スキーを履いてそりにつかまります。二人つかまると重くて馬が止まり、馬追のおじさんに怒鳴られたものです。そんな風に幼年時代に壮年であった大人たちの姿が、故郷を思い出すときに一緒に浮かびあがってくるものです。わたしは実際の記憶や映像の中に、大人たちは実際に生きていて、故郷を暖かく想いだせるのだと思います。本当にありがたいこと気持ちが湧いてきます。

町長 田中一史

モー突進レポート

翔 SHOW TIME たいむ

vol.5



今回の翔たいむは「国営農地再編整備事業妹背牛地区」の完了記念事業として8月24日に行われた「田園を歩こう農業農村フェア」に参加しました。

「国営農地再編整備事業」は、中小の圃場を大区画に再編し、効率的かつ生産性の高い水田農業を目指して進めてきたものです。

この日の催しは、事業で整備された町道1号線を通り農村記念公園まで往復約9kmの道のりを歩きます。出発は役場裏の駐車場。開始時間の10時には、町内外から職場仲間や親子連れなど90人の参加者が集まっています。前日の夜から降っていた雨は開始前に上がり、「強い日差しもあたらぬし丁度いいな」なんて考えながらスタート。しかし：散策路に差し掛かった頃から、ポツポツと雨が降り始めました。参加者の皆さんは雨具でしのぎながら折り返しの「国営農地整備記念公園」へと足を進めます。



元気にさあ出発！

大きな池に水が流れる綺麗な公園には、特設の休憩所が設けられ、ライスコロッケやおにぎり、こがね大福などの地元フードが振舞われました。どれも疲れた体に染みわたる美味しい物ばかり…。

国営農地再編整備事業妹背牛地区完了記念事業

田園を歩こう農業農村フェア

2019/8/24



道沿いには広大な農地が広がります

運動した後の最高の食事やクイズなどを愉しみ、後半のウォーキングがスタート。一時強く降っていた雨も帰りには止み、ゆっくりと景色を楽しみながら歩くことができました。沿道には僅かに色づき始めた広大な田んぼが広がります。参加者の皆さんと会話をしながら歩いているうち、ナント！東京から参加されたという方が・・・現在農林水産省に勤めている百々宏晶さんは、転勤前深川農業事務所に勤めていてこの事業に携わっていたのだそうです。完成した道路を眺めながら「すごい、綺麗になってる」と感慨深く語っていました。

こうして時折雨にあたりながら、全員が無事に役場裏駐車場に戻ってくる



東京から参加の百々さん

ことができました。道中は「まだかなあ長いなあ」と考えていましたが、終わってみるとなんだかあつという間。農地の広大さと綺麗な景色。そして地元フードの美味しさを再確認できたウォーキングとなりました。



再確認できたウォーキングとなりました。